

埼玉育ちのグローバル人

言葉が相手に伝わって、同じ世界が開ける。つなが

第3回 「自分のルーツ」

外国人総合相談センター埼玉 スペイン語相談員
島袋 初井ハビエル



埼玉県マスコット「コバトン」

私はさまざまな文化や人々と出会うことが大好きです。海外旅行中でも常に仕事を見据えてすごしています。



モスクワ大学にて

これまでの最高の体験は沖縄で初めて私の親族と会ったことでした。しかしここは日本ですから、すべてを非常に退屈で儀式的に旅行の日程を順序だてて日本式に進めなくてはならなかったのです。訪問する約3か月から2か月前に先方へ都合をお伺いし、到着する正確な時間を連絡しました。私はとても緊張して心配していました。祖父母の美しい島である「沖縄」に行ったのは初めてでした。奇妙な気持ちの中になつかしさのような気持ちもありました。というのも、珍しい名字、食べ物、伝統的な踊りは、ペルーでの祖父の沖縄県人会パーティーを思い出させたからでした。この旅の目的は、幼いときに会った優しい曾祖母の墓を訪問することでした。最初はたくさんの

不安がありましたが、どのような言葉をかければいいのか、どのように自己紹介すればいいのか、知らない親戚にどんなプレゼントをあげたら喜ばれるのか？ 難題を抱えていました。しかし、父方の叔母の家に着いたとき、叔母は笑顔を見せながら「おかえりなさい」と迎えてくれました。それが、美しいメロディーのようにとても暖かく聞こえ、非常に感動しました。日本人の祖父母、日系人の両親、そして私も日本の血を運んでいるという誇りが胸の中から湧き出て、たくさんの思い出がいつきに脳裏を駆け巡りました。



沖縄の叔母と

非常に感動的だったのは、初めて会ったのにもかかわらず、頻繁に行き来し、お互いをよく知っているかのように挨拶をしたことでした。ふみこ叔母さんの家のドアを開けたら素敵で、親切で、とても愛情深い叔母そこに立っていました。そこで印象に残った最もおもしろいことを言いました。

「すみませんが、何も準備していません。冷たい缶コーヒー飲んでください」。正直言ってコーヒーは嫌いですが、親切に言ってくださったし、暑かったのでいただきました。私の曾祖父母、祖父母の写真、島袋家代々の家系図全体の説明を叔母から聞きました。なんだか、自分が「最後の侍」のように感じました(笑)

実際には知らないですが、私と同じ血筋の親戚の方々の写真をたくさんみました。これが、私の人生で起こった最高の出来事でした。やっと私は「島人」になれました。



沖縄・首里城にて

～ペルーについて少し話しましょう～

埼玉県には（2018年までのデータ）、約3,485人のペルー人が在住しています。私もそのうちの一人ですが。日本からみると地球の向こう側にあるペルー、最近では日本人がとても興味を示し、往復で3日間かかるにもかかわらず多くの人が旅を楽しんでいます。

私は、リマの大学で経済学を勉強しながら、日秘文化会館では日本語も勉強していました。中高等学校はリマ市にある香港系の学校に在学していました。ですから、小さい時から必然的に英語と広東語を勉強していました。よく聞かれるのではっきりしたいのですが、私は残念ながらマチュピチュでアルパカやリャマのそばで勉強をしたのでは

ありませんよ(笑)。もちろん、これもよく聞かれるのですが、世界最高所の湖、チチカカ湖のそばで遊んだわけでもありません。しかし、これらはずいぶん訪れていただきたい世界の素晴らしい所です。チチカカ湖は標高3,812メートルにあり、行かれるのであれば、富士山より高いので覚悟が必要です。



マチュピチュ

最後にお伝えしますが、Google先生によるとペルーには5,000種以上のじゃがいも、3,931種のトウモロコシがあります。もちろん、私自身それぞれ3から5種しか食べたことはありませんが。トマト、かぼちゃ、キヌア、マカも南米アンデス地方の伝統的な農産物です。これらの多彩な材料を使ったペルー料理は世界で最も評価されているグルメ料理の一つです。「セビッチェ」という代表的な料理があります。120年前移民してきた日本人にルーツがあるとされています。個人的にはシンプルで健康的な日本料理が好きです。



ペルーのとうもろこし

皆さんには、ラテンアメリカの景色、人々、料理をぜひ楽しんでいただきたいと思います。もしペルーのアンデス地方へ行かれるのであれば酸素ボンベをお忘れなく！



アンデス山脈

日本には今現在もたくさんお世話になっています。

Muchas Gracias

島袋 勲 井ハビエル